

18番	富田 宗一 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1. 小規模特認校の特色について</p> <p>【質問趣旨】</p> <p>「小規模特認校制度」は、学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもので、特定の学校を「特認校」として指定し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うものです。</p> <p>このような環境での教育を保護者や児童生徒が希望する場合は、従来の通学区域は残したままで、学校選択制の一つとして市内のどこからでも就学ができます。</p> <p>瀬戸市においても二つの小規模特認校があり、品野台小学校と掛川小学校とも環境が違っても地域住民と保護者によって支えられていると</p>	<p>(1) 小規模特認校の教育方針とは</p> <p>(2) 特認校制度を改正してどのような変化を考えているのか。</p> <p>(3) 魅力と特色のある学校づくりについて</p>	<p>① 品野台小学校は平成9年度にエコスクールパイロット・モデル事業認定校としてスタートされ、また、掛川小学校は、瀬戸市内で最も児童数が少ない学校である。それぞれの学校の特徴やメリット、教育方針について伺う。</p> <p>② 瀬戸市におけるデメリットはどのようにとらえているのか。また、それをどのように克服しようと考えているのか伺う。</p> <p>① 市は昨年度「掛川小学校を考える会」の方々と意見交換をされたと聞くが、様々な意見が出されたなかで、「どの学年からでも入学を希望すれば受け入れてほしい」という声があったとお聞きしている。そこで、どの学年からも入学できるように令和6年度から特認校制度を一部改正されると思うが、児童が増えることによって、どのような変化を考えているのか、また、どのような教育指導を考えているのか伺う。</p> <p>② 品野台小学校においては、なぜ改正を行わないのか伺う。</p> <p>① 両校の学校公開においては、どのような取り組みをして魅力発信をしているのか伺う。</p> <p>② 今後、掛川小学校が小規模特認校としてより魅力のある学校づくりを進めていくには、何が必要で何を求めていくのか伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

18番	富田 宗一 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>思います。</p> <p>どちらの学校も独自の良さがあると思いその良さをもっと引き出すために質問をしていきます。</p>	<p>(4) 小学校からの進学について</p>	<p>③ 掛川小学校においては「魅力と特色ある教育」を展開することにより「中山間の学校に通う」ようになり、それが中山間地の活性化の一躍を担うことになると思うが、見解を伺う。</p> <p>④ 品野台小学校においては、開かれた小学校を目指し、明るく開放的な生活空間の中で、児童の個性を活かし自らが「学ぶ」力を身につける学校、自然環境を活かし体で感じて学ぶことができる学校を目指していると思うが、今後の魅力のある学校づくりを進めていくには、何が必要で何を求めていくのか伺う。</p> <p>① 小学校から中学校への進学時において、新しい環境での学習や生活へ移行できない子どもが多いことから、小・中学校間の円滑な移行に配慮した様々な取り組みをされている。品野中学校区では、4校の交流を行いながらも中学校の先生が品野台・下品野小学校には指導をしているが、掛川小学校においてはどのような指導をしているのか伺う。</p> <p>② 品野台小学校と掛川小学校では交流会を実施されているが、その目的と成果を伺う。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症拡大で学校行事が縮小され、様々な小中一貫教育においての交流機会もなくなってしまったが、今後の取り組みについて伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

18番	富田 宗一 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	<p>(5) 森と自然を活かした掛川小学校の未来に向けて</p>	<p>④ 掛川小学校では小学校を卒業すると、定光寺町に居住する児童は春日井市高蔵寺中学校を、下半田川町に居住する児童は岐阜県多治見市の中学校を選択し進むと聞いている。また、校区外から通学していた場合は、居住する通学区域に応じた中学校または品野中学校を選択し進むことができるとお聞きしたが、掛川小学校から中学校へ進む子どもたちへの指導はどのように取り組んでいるのか伺う。</p> <p>① 特色ある学校づくりの例としては、高知県高知市立義務教育学校土佐山学舎があり、平成27年4月に施設一体型小中一貫校として開校された。この学校は英語教育に力を入れており、子どもたちが卒業するまでに英検2級の習得を目指している。2017～2019年には、9年生は約85%が3級を得ている。さらに60%が準2級に合格し卒業している。その後毎年4名程度は2級に合格している。英語教育だけではなく9年間で前期、中期、後期に分けて、前期では土佐山に親しむ・知る。中期では土佐山を見つめる。後期では土佐山に貢献する。大きな視点として、生まれ育った「土佐山地域」の良さを自ら発見して発信することを学習ポイントとしている。この学校を支えている人は地域の方々に「わざわざ通わせたくなる魅力ある学校づくり」が人口減少中での地域づくりが『大きなキー』となると考えられる。こうした取り組みが瀬戸市においても可能ではないかと思うが見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。